

## ごあいさつ

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただき、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫をより一層ご理解いただくため、ディスクロージャー誌2023「はちしんナウ」を発刊いたしました。本誌をご一読いただき、当金庫をさらに身近に感じていただければ幸いです。

令和4年度は、新型コロナ禍からの社会経済活動正常化の動きもみられ、国内経済は緩やかな持ち直しの兆候も見られましたが、その一方で世界的な資源・エネルギー価格の高騰や、欧米各国の強力な金融引き締め等による世界的景気後退懸念もあり、国内経済は不透明感が増した1年でもありました。当地域経済も新型コロナの影響継続に加え、こうした経済環境変化の影響を受け、幅広い業種で業績の伸び悩みが見られました。

金融環境では米国を中心とした強力な利上げ政策が世界金融市場に大変動をもたらし、世界の金融機関経営に大きな影響を与えました。為替相場は内外金利差拡大を背景として急激な円安となり、その基調は現在も続いております。

当金庫では、第2次中期経営計画「変革・挑戦」（令和2年度～令和4年度）の最終年度を迎え、地域経済回復を最優先課題として諸施策を着実に遂行してまいりました。初年度に立ち上げた新営業推進体制は、本部による営業店サポート強化と営業支援システムの本格活用により着実に機能し、コロナ禍で影響を受けられたお取引先の資金需要に積極的に対応したほか、補助金申請・事業継続サポート等にも注力しました。また、コンサルティング機能発揮によるお取引先の本業支援、経営改善支援にも積極的に取り組んだほか、創業・事業承継支援等にも注力しました。

令和4年度の業績につきましては、預積金残高が前期比5億45百万円増加の1,229億72百万円となった一方、貸出金残高は長引くコロナ禍の下で事業者の資金需要が回復せず減少基調となったことから、前期比19億45百万円減少の318億39百万円となりました。収益面では、貸出金利息は残高減少と利回り低下を受け前期比19百万円の小幅減少となりましたが、有価証券利息配当金が投資残高増加と円安効果により前期比1億79百万円増加し、また、国債等債券売却益1億51百万円を確保したことなどにより、経常利益は3億87百万円、当期純利益は2億3百万円を計上することができました。

令和5年度は、第3次中期経営計画「創造、そして未来へ」（令和5年度～令和7年度）のスタートの年となります。激変する経営環境下ではありますが、従来からの「成長力」・「収益力」・「健全性」の3つの視点に立脚した基本戦略と実施施策を有機的に連環させて着実に遂行することにより、「コロナからの再生」を経て、「持続可能な地域経済社会」の実現に貢献してまいり所存でございますので、今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年7月

理事長

木下 節夫

